

遊びの中には 学びがいっぱい!

～職員室から～

～さながらの生活～

自分たちのやりたい遊びのために、必要だから水たまりを埋めるのです。子どもたちは教師に指示されて過ごすのではなく、自分たちの必要感から動きます。だからこそ、見通しをもって自分で考え、必要なものを準備し、友達と伝え合ったり、土の固まり具合などを確かめたりします。

これは生活そのもの。子どもの「やってみよう」から始まることは、少し難しくても、一見遊びに見えなくても、夢中になるものです。こうしたさながらの生活を通して学んでいくのが幼児期。教師はこの過程を支えます。

思考力の
芽生え

健康な
心と体

園長松本です。

一雨ごとに秋が深まり、雪の便りも聞かれるようになりました。あるお天気の良い日、「ケイドロしよう!」「リレーも!」と誘い合って外に飛び出した子どもたち。ところが夜中の雨で、園庭に水たまりがあちこちにできていました。



まだフワフワしてる。
もっと固めなくちゃ!

ここも埋めないと
リレーのとき困るね。



ケイドロ、たのしい～!

“水たまり”という身近な事象に自ら関わって、土や水などの性質を感じ取りながら、考えたり予想したりしています。そして、やりたいことに向かって心と体を働かせ、充実感を味わう経験となりました。